

研修会報告

令和 4年 12月 30日

文責： 岩木啓太

研修会テーマ「対応力を磨こう! 輸血検査室の Case Study」

開催日時 令和 4年 12月 17日 (土) 14:00 ~ 16:00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 岩木啓太

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 45 名 入会申請中会員 0 名 非会員 0 名 賛助会員 0 名 学生 0 名

合計 45 名

講演 1【その症例、どこの施設でも解決できます】

講師：東北労災病院 岩橋隆之 技師

講演 2【こんな時の製剤のチョイスとアドバイス】

講師：東北大学病院 郷野辰幸 技師

内容

今回の研修会は、Case Study 形式の 2 つの講演を開催しました。

講演 1 では、血液型検査で予期せぬ反応に遭遇した際の対処について東北労災病院 岩橋隆之 技師に講演して頂きました。特に今回は、多くの施設でできる追加の検査、問題解決のためのアプローチという点について重点を置いてご講演頂きました。実際に経験した症例をもとに、抗 M によるウラ検査への影響の対処法、寒冷凝集素が高力価の場合の対応例等の具体的な方法を紹介して頂き、確立した知識と工夫で問題解決に導く実践可能な方法はとても参考になる内容でした。また、予期せぬ反応に遭遇した際に、「まずは追加検査でやれることをやるという大切さ」というメッセージも盛り込まれた、検査に対する熱意溢れる心に響く講演でした。

講演 2 では、血液製剤の依頼や相談がきたシーンの対応に関して東北大学病院 郷野辰幸 技師講演をして頂きました。輸血のチーム医療を考える中で、臨床検査技師は、輸血検査だけでなく輸血可能な適切な製剤の選択や助言に関しても担う役割とされています。講演では「輸血療法の実施に関する指針」や「危機的出血への対応ガイドライン」をはじめとする多くの指針やガイドラインを紹介して頂き、エビデンスに基づいた製剤選択の考え方を講演して頂きました。また、実際の臨床現場での医師とのやり取りや、血小板不応に関する相談内容に対する助言等についてもご紹介頂きました。輸血検査だけでは無い、製剤選択の助言といった臨床とのやり取りという輸血を担う検査技師の大切な職務の一面について、実践

経験と多くのエビデンスが盛り込まれた非常に参考となる講演でした。

今回の研修会では、輸血検査と輸血臨床（製剤選択）という2方向の視点で **Case Study** 形式の講演を開催しました。ご参加頂いた方々の日々の輸血業務において、本研修会の内容が少しでも参考になっていればと願っております。